

真声会 会報

第 51 号

2010年12月1日
発行

発行所
真声会

〒610-1197 京都市西京区大枝沓掛町13番地の6
京都市立芸術大学音楽学部内 TEL (075) 334-2222
同窓会事務局 TEL (080) 6185-4494
e-mail : shinsei@kcua.ac.jp

京都市立芸術大学創立130周年記念 同窓会 大集合 が開催されました!

去る年7月3日(土)午後1時より大学会館およびその周辺にて催され、雨のなか、午前の大学主催記念式典に引き続き、多数のみなさまにご参加いただき、本学創立130周年をお祝いしました。美術学部同窓会中井貞次会長の開会の挨拶に引き続き、西島安則学長のご挨拶、来賓の紹介、音楽学部同窓会佐々木研副会長による乾杯の発声で開会し、創立130周年をお祝いしました。翌日に迫る音楽学部定期演奏会の公開練習、美術学部による130年を振り返るスライドショーや学内の制作室・研究室見学なども行われました。



川上肇(23期トランペット): 勇敢な市民のためのファンファーレ
指揮: 大谷麻由美(2回生)

トランペット: 坂本 佳織(2回生) 山崎 浩司(2回生) 石原 舞(3回生) 松村 彩子(4回生)
ホルン: 長岡 美樹(2回生) 野口 翠里(2回生) 今井 希(4回生) 槌田 裕美(4回生)
トロンボーン: 滝田 姫子(3回生) 土井 詩織(3回生) 渡辺 亜紀子(3回生) 寺谷 糧(2回生)
チューバ: 井上 拓(4回生、前学生自治会会長)



講堂での定期演奏会の公開練習

[撮影: 奥田聖子(48期声楽)]

西島安則先生を悼む

真声会会長 大村 益雄(1期作曲)

西島学長はお若いときにフランス西南部のラスコー洞窟に立ち寄られました。この洞窟は今から1万5千年ぐらい前(エジプトのピラミッドが約4千500年前といわれていますから随分むかし)に描かれた、生き活きとした彩色の動物たちの洞窟壁画でよく知られているところですが、この洞窟に大変興味を持たれて、数日間にわたって枝分かれした洞窟の中をくまなく歩いて、片隅に転げ落ちていた当時のランプを見つけられたそうです。その1万5千年前のランプが、アラジンと魔法のランプのお話しに出てくる1000年ぐらい前のランプと同じような機能と形状を持っていたことに深い関心を寄せておられました。私はこのお話を聞いて、西島先生の好奇心と観察力が、並はずれて大きく鋭いことに驚きました。普通の人なら、ラスコー洞窟の壁画のみに関心を示し、動物壁画を見たときの印象を中心にお話をされると思うのですが、西島先生は、そこから一步も二歩も踏み込んだところに興味を持たれていました。これは、11年前に京芸学長をしておられたときのお話です。



今年、学長として戻ってこられたとき、真声会会長として4月21日、ご挨拶にお伺いし、サテライト・ビジョンのお話しをお聞きしました。約50年前にソ連がスプートニク(人工衛星の名前)を打ち上げたときの技術状況と世界情勢をお話されて、スプートニクのように地球の外から地球を見る発想で、我々の京芸が、京都市内の真ん中に新しく建設された京都堀川音楽高校の設備を活用するサテライト・ビジョンの抱負を述べられました。交通不便な所にある京芸が、交通の便利な設備を活用することにより、京都市民とも深い接触を図り、教育効果を更に上げていこうという発想です。

西島安則先生は、以前、京都大学の総長を務められ、高分子化学がご専門ですが、イタリアのトスカナ地方に広がる文化遺産のお話も、ご本人から直接お伺いしたことがあります。サイエンスだけではなく、世界の民族文化にも深い興味と造詣をお持ちの方でした。

このように、物の見方が普通の人の洞察力を越え、独自の方向から広く深く眺めておられたので、京芸の「将来あるべき姿」に対しても、明確なビジョンを具体的に組み立て、その着実な実現を目指しておられたと思います。9月5日に、その時は既にお亡くなりになっていたのですが、そうとは知らず、西島先生が、とても80歳を越えておられるとは思えないお元気さで、サテライト・ビジョンの抱負を述べておられたという噂話を、仲間の真声会会員としていました。そして突然のご逝去を知り、大変驚きました。天命とはいえ惜しい方を失いました。残念です。心より深くご冥福をお祈り申し上げます。

11月28日(日)、芸大講堂にて「西島安則先生お別れの会」が執り行われました。

役員会を開催しました!

去る4月25日(日)15時より、からすま京都ホテルに於いて、各年度役員と各支部長計29名、拡大運営委員会メンバー11名、学生会員7名、合計47名の参加により役員会が行われました。130周年記念事業に向けてなど、さまざまな取り組みの報告がなされました。役員会は総会の年と交互に行われています。



130周年記念事業について

1. 美術学部と音楽学部の催し 2. 創立130周年記念美術学部音楽学部同窓会「大集合」への取り組みについて 3. 130周年寄付について

活動報告

1. 学生会員について 2. 70歳到達期よりの年会費の免除について 3. 同窓会事務室の週3日開設について 4. 選挙について 5. 同窓会HP 6. 演奏会情報 7. 会報 8. 会計報告 9. 各支部長より 10. 年度委員より 11. 学生会員より



7月の同窓会大集合に合わせて、
大変読みやすい形でホームページが
リニューアルしました。
演奏会情報も週3回更新しています。
どうぞご覧になってください。

決算報告と予算案

京都市立芸術大学音楽学部同窓会「真声会」
2009年度 会計報告（2009年4月1日～2010年3月31日）

収 入			支 出		
内 容	内訳金額	合計金額	内 容	内訳金額	合計金額
前年度繰越金		24,045,281	援助金		
今年度会費納入 入会金(68名)	1,020,000		支部援助金	808,000	
会費	3,144,000	4,164,000	芸大演奏旅行	0	
受取利息			コール真声会	26,000	
郵便貯金	5,677		芸大定期演奏会	50,000	884,000
銀行預金	10,845	16,522	印刷費		
総会パーティー費			大光社（名簿）	1,480,088	
会費収入		64,000	大光社（会報、その他）	177,188	1,657,276
雑収入		3,000	通信費		
			大光社分	627,400	
			電話代	18,379	
			その他	47,330	693,109
			会議費		
			総会	156,618	
			役員会、理事会	19,250	
			その他	90,630	266,498
			交通費		
			役員会、理事会	15,320	
			その他	45,030	60,350
			人件費		
			事務費	286,000	
			名簿管理費	0	
			その他	0	286,000
			備品購入費		0
			雑費		12,000
			消耗品		45,184
			手数料		1,370
			慶弔費		3,790
			京都市芸術文化協会年会費		10,000
			入会金二重払い分払い戻し		0
			会費二重引落とし分払い戻し		50,000
			銀行手数料（南都銀行）		90,877
			今年度支出合計		4,060,454
			次期繰越金		
			郵便貯金及び銀行預金	24,194,021	
			現金	38,328	24,232,349
総 計		28,292,803	総 計		28,292,803

財 産 目 録

種 類	残高	品 目	購 入	価 格
郵便定額貯金	4,000,000			
郵便貯金総合通帳	2,985,784			
郵便振替口座	554,970	NEC VALUESTAR 一式	2004年3月	
南都銀行定期預金	5,014,125	NEC Lavie 一式	2004年3月	464,646
南都銀行普通預金	6,458,042	エプソン／LP-6100	2004年3月	
三井住友銀行定期預金	5,180,878	NEC VALUESTAR 備品	2004年3月	
三井住友銀行普通預金	222	SONY VAIO 一式	2008年1月	167,000

2009年度「真声会」収支決算報告については、以上のとおりです。 2010年5月22日
会計 菊田義典 印 会計 山本千壽 印
以上の報告に相違ないことを認めます。
会計監査 阪田誠康 印 会計監査 山本毅 印

2009年度 京都市立芸術大学130年記念寄付
特別会計収支報告（2009年4月1日～2010年3月31日）

収 入			支 出		
内 容	件数	合計金額	内 容	件数	合計金額
会員からの振替	402件	1,601,120	振替手数料	402件	44,030
			130周年記念口座へ振込	2件	900,000
			振込手数料	2件	840
総 計		1,601,120	総 計		944,870

2010年度 特別会計への繰越金 656,250

2009年度「真声会」収支決算報告については、以上のとおりです。 2010年5月22日
会計 菊田義典 印 会計 山本千壽 印
以上の報告に相違ないことを認めます。
会計監査 阪田誠康 印 会計監査 山本毅 印

京都市立芸術大学音楽学部同窓会「真声会」2010年度 予算案

支 出				
内 容	2008年度決算	2009年度予算	2009年度決算	2010年度予算(案)
援助費 計	971,000	1,036,000	884,000	1,096,000
内訳 支部援助金	795,000	860,000	808,000	920,000
芸大演奏旅行	100,000	100,000	0	100,000
コール真声会	26,000	26,000	26,000	26,000
芸大定期演奏会	50,000	50,000	50,000	50,000
印刷費 計	2,955,896	1,500,000	1,657,276	1,900,000
内訳 大光社（会報その他）	942,669	1,000,000	1,480,088	1,900,000
大光社（名簿）	2013227	—	—	—
会員証	—	500,000	177,188	—
通信費 計	639,265	980,000	693,109	880,000
内訳 大光社分	609,260	900,000	627,400	800,000
同窓会室電話代	—	30,000	18,379	30,000
その他	30,005	50,000	47,330	50,000
会議費 計	112,533	220,000	266,498	280,000
内訳 総会費	—	150,000	156,618	—
役員会、理事会	67,500	20,000	19,250	180,000
その他	45,033	50,000	90,630	100,000
交通費 計	154,620	150,000	60,350	200,000
内訳 役員会、理事会	110,240	100,000	15,320	150,000
その他会議	44,380	50,000	45,030	50,000
人件費 計	54,000	250,000	286,000	550,000
内訳 同窓会室事務費	38,000	250,000	286,000	550,000
その他	0	0	0	0
名簿管理費	16,000	—	—	—
芸大事務委託費	—	—	—	—
備品購入費	0	0	0	0
雑費	10,000	10,000	12,000	10,000
消耗品	10,251	10,000	45,184	20,000
手数料（振込等）	160	1,000	1,370	1,000
慶弔費	15,833	10,000	3,790	10,000
入会金二重払い分払い戻し	0	0	0	0
会費二重引き落とし分払い戻し	0	0	50,000	0
銀行手数料（南都銀行）	102,952	110,000	90,877	100,000
京都市芸術文化協会年会費	20,000	10,000	10,000	10,000
予備費	—	100,000	—	100,000
小 計	5,046,510	4,387,000	4,060,454	5,157,000
次期繰越金	—	—	187,068	—
不足金	14,022	7,000	—	912,000
合 計	5,032,488	4,380,000	4,247,522	4,245,000

収 入				
内 容	2008年度決算	2009年度予算	2009年度決算	2010年度予算(案)
会費納入 入会金	1,110,000	1,050,000	1,020,000	1,050,000
会費	3,855,000	3,200,000	3,144,000	3,100,000
受取利息 郵便定額貯金満期	—	—	3,439	—
郵便貯金	6,112	6,000	2,238	5,000
銀行預金	24,176	24,000	10,845	10,000
（定期・普通）				
総会パーティー費	—	100,000	64,000	—
会費収入	（総会の無い年）			（総会の無い年）
広告料 大光社より（名簿に掲載分）	—	—	—	—
人件費補助（教員互助会等）	—	—	—	80,000
雑収入	37,200	—	3,000	—
	5,032,488	4,380,000	4,247,522	4,245,000

音楽学部との懇談会を行いました！

去る7月22日（木）18時より芸大大学会館交流室に於いて、真声会と音楽学部との懇談会を行いました。戦前のおお阪出身の作曲家で、夭折した貴志康一の作品もプログラミングされた出来上がったばかりのおお阪支部のコンサートチラシが配られ、教員から日頃の音楽学部への同窓会の協力への御礼と同窓会へ130周年事業への多大なる寄付への御礼が伝えられるとともに、大学法人化をひかえてすでにさまざまな活性化している大学の様子も語られ、なごやかな懇談となりました。出席者は大村益雄会長（1期作曲）、金森重裕おお阪副支部長（6期クラリネット）、田中美鈴前京都市立音楽高校校長（8期ピアノ）、山田晏子京都支部会長（10期声楽）、三森尚子前本部役員（26期ピアノ）、山本毅音楽学部長（24期打楽器）、前田守一音楽研究科長、三井ツヤ子教授（16期声楽）、大嶋義実教授（26期フルート）、中村典子講師（32期作曲）の10名でした。

創立130周年記念事業のための第3回ご寄付をありがとうございました！

前回会報で創立130周年記念同窓会 大集合！参加申し込みに併設し、創立130周年記念事業のための第3回ご寄付を受け付けましたところ、会員の皆様から募金として総額148000円（振込手数料1080円）にも達するご寄付を頂き、まことにありがとうございました。これにて、第1回から第3回の寄付総額は1766120円（振込手数料45630円）となりました。これまでに、昨年12月の定期演奏会「第九」、今年2月の大学院オペラ「椿姫」、今年7月の大同窓会に捻出させていただきました。詳細は次号にてご報告させていただきます。今回、第4回（最終）ご寄付振込用紙を同封しました。ご協力よろしくお願いいたします（受付は2011年3月末日まで）。

（内訳：第1回938120円（振込手数料23020円）第2回680000円（振込手数料21530円）第3回148000円（振込手数料1080円））

（寄付者一覧）						（敬称略）					
1期	鈴木 安子	8期	今井 悦子	10期	大西 多恵子	18期	佐々木 百合子	34期	高橋 律子		
3期	伊谷 和子	8期	田中 美鈴	10期	中島 慈子	21期	藤野 カヨ	35期	福永 圭子		
3期	服部 玲子	8期	佐藤 紀子	11期	小林 浩子	21期	平野 暁子	52期	高橋 純		
5期	吉富 真弓	9期	菊池 逸子	12期	吉川 洋子	25期	美世 千春	53期	櫛原 藍		
5期	大村 禮子	9期	泉 庄右衛門	13期	松村 千恵子	29期	駒田 さよこ	53期	真隅 政大		
6期	白石 由紀子	9期	武田 佳子	15期	松本 真理子	31期	匿名希望	55期	西村 卓将		

役員改選選挙について

2010年10月2日に行なわれた理事会において、今回の選挙方法が決定しました。

会則第14条 会長、副会長、運営委員長（運営副委員長）、理事、運営委員、及び会計監査委員（以下、「総会選出役員」という。）は、全正会員の投票により候補者を選出（以下、「役員選挙」という。）し、総会において決定する。

選挙管理委員が選出、承認され、選挙管理委員会が発足しました。

委員長 佐藤敏子（17期声楽）
委員 西村靖子（8期ピアノ）
委員 小室彰子（10期声楽）
委員 豊住征子（11期声楽）

選挙方法と日程の決定

- ① 役員推薦候補を5名連記で募る（自薦も可。内同期生を1名以上含む。）投票締切は12月末日。（同封のハガキにて投票する。）
- ② 選挙管理委員会が1月初旬に集計し、「推薦者一覧表」を作成する。
- ③ 全会員に3月31日までに「推薦者一覧表」を送付し、本選挙を実施する。4月20日までに投票（3名連記）を行い、本部役員に必要な人数を拡大運営委員会で考慮したうえで選出者数を決め、氏名を公表する。
- ④ 5月初旬に選挙管理委員会が選出者を招集し、現本部役員との会合を開く。
- ⑤ 5月下旬に理事会を開催し、新本部役員を承認する。
- ⑥ 7月に総会を開催し、新本部役員を決定する。

追悼 植田 治男 先生

5月31日に亡くなられた名誉教授の植田治男先生を偲び、追悼文が寄せられました。先生のご冥福を、謹んでお祈り申し上げます。

お優しい植田治男先生を偲んで

三井ツヤ子（現教授 16期声楽）

『本年もよろしく、電話もお留守ばかりで体のことが心配で渡部さんに電話したら八日迄ウィーン行きとの事、安心しました。リサイタルはうまくゆきましたか』これが先生との40余年となる交流の中でいただいた最後の年賀状となりました。突然の訃報に接して私は大きなショックを隠せませんでした。何の根拠もなくかつにも先生は100才迄きっと生きて下さると信じていた私は、日々の忙しさに追われ、時間が出来たらゆっくりお訪ねするつもりでした。昨年4月、京都文化博物館でブラームスの歌曲を歌う予定でしたが、当時検査のため気胸が起こり、ドクターストップで私抜きで院生二人が立派に歌ってくれました。事情をご存知ない先生が会場に来られ、二人の歌をお聴きになり、“私の孫弟子だ”と相好を崩しておられたのがお目にかかれた最後のお姿でした。

先生との思い出が走馬灯のように駆け巡ります。出会いは短大の入学式でした。何と背の高い細い方だろうとの印象でした。その後芸大となり編入後の2年の合計4年間、先生にお世話になりました。まだ幼く、目覚めていない私を根気よくアカデミックな教えで導いてくださいました。飄々としていてそれでいて秘かにお洒落でダンディ、どこか一徹な職人気質の風情漂う方でしたが、ひとたび発声の話になると、時間を忘れて熱弁をふるわれたものです。「関西はのどこすり音出し器の声の人が多いが、断じて君達はそうならないように。声ではないのです。響きを身につけるのです！」と。この教えは今尚私自身の教えの中核になっているものです。芸大を卒業後、高校で教諭として働いていましたが、ザルツブルクの講習で出会ったアリーン・オジェー先生との縁で、その後ウィーンに留学することになりました。一旦帰国後今度はフランクフルトの国立音楽大学に移るにあたり是非アシスタント



として来てほしいとの彼女の要請に当時の私は老いた両親を置き、自分だけが夢を叶えることにどうしてもふんざりがつかない日々を過ごしていました。そんな悶々とした私の背中を大きく押してくださったのです。『行きなさい。日本にいても親の死に目に会えないこともあるし、逆にあなたを待つことで両親は元気でおられますよ』人生の岐路にさしかかった私が、その言葉により何もかも捨てて32才で新しい世界に飛び込む決心をしたのでした。両親は今では亡くなりましたが、40才で芸大に赴任の為帰国した時には先生の言われた通り元気に私を待っていていました。それから日が経ち、はやくも私の定年は来年の3月に迫りました。植田先生、私の在職中、陰から常に支えて下さった先生に私の定年を見届けていただけないのが本当に悔しくて悲しいです。どうぞ安らかにお眠り下さい。

植田先生を悼んで

鈴木グローマン 敦子（25期声楽）

ドイツで音楽生活を始めて、もうすぐ30年になります。当時、給費留学試験に2度も落ち、意気消沈していた私に、「鈴木さん、絶対ドイツへ行きなさいよ、あなたはできるんだから…」と励まして下さった先生のお声とお顔が今でもはっきり心に残っています。

植田先生に初めてお目にかかったのは高校に入ってからすぐのことでした。門下生にさせていただけたことが嬉しくて、片道2時間弱も何のその…毎週土曜日が楽しみでなりません。それが受験前の1年間は、甘えた私の心を鍛えるが如く、先生は全くのスパルタ式教育で、私は叱られてばかりでした。帰り道に涙が出て、京都タワーがかすんで見えなかったこともしょっちゅう

ありました。そんな、私をほめて下さらない植田先生が、「私の愛弟子の三井ツヤ子がリサイタルするので必ず行きなさい。」とチケットを2枚下さいました。クラシック音楽に全然興味のない友人と2人で聴きに行き、「敦っちゃん、寝たら起こしてね。」と言っていた友人と、音楽会の最後には涙が止まらず、立ち上がれない位感動した日のことを、私は今でもはっきり覚えています。その時に、「植田先生についていたら、こんな声楽家になれるんだ。」と思い、再び希望新たに練習し続け、その気持ちのまま今日に至っています。

今ここに植田先生からのお手紙が何通あります。クリスマスに小さなドイツのケーキをお送りした時は、「目をつぶっていただくと、ドイツにいるような気がします。」とか「つらいことがあっても、そのひとつひとつが勉強ですからね。それがいつか音楽につながるんです。」とか、たくさん心温まることをぎっしり書いて下さり、先生が亡くなられ遠くへ行かれたという実感がありません。どこで何を歌っても、ホールの後ろで聴いて下さっているような気さえます。

植田先生、私は先生とお別れする気持ちはありません。

そしてこれからも命ある限り、先生に感謝し続けます。ありがとうございました。

[illegible]

植田治男先生の思い出

日下部祐子 (27期声楽)

私が初めて先生にお会いしたのは、「京都市立芸大音楽学部・京都子供の音楽教室」に通っていた小学生の頃でした。ソルフェージュのクラスで教えて頂きましたが、とにかく終始一貫べたべたの京都弁、しかもお話の中身と来たら、小学生には難しい音楽の本質的な事(…それも後から分かったのです)まで切り込んで延々と話されるのです。ただでもぼーとしていた私は、わけも分からずさらに口を開いて聞き入るばかり。私と同じ年だった先生のお嬢さんも同じクラスにいらっしやいましたが、私と似たり寄ったり、我関せずと消しゴムで無心に遊んでいたりして、先生の有意義なソルフェージュ論も高邁な音楽談義も、いつも右から左に抜けてゆくばかりでした。

それから年月が経って、大学で再び声楽の先生としてお世話になりましたが、相変わらずべたべたの京都弁、しかも生粋の京都人ならではの毒舌家。今から考えたら、学生相手に本質的なことを、よくもあそこまでずばずばと切り込んでいらっしやったもの、と感心します。当時の私は、小学生の頃からそれほどの進歩も無かったのか、先生のお話を深くは理解できていませんでした。

今から考えてもつくづく良かったなあ、と思うことは、まだ中身も充実していなかった精神的に幼い私に、先生は無理やり音楽の外音だけ作るようなことを、一切何もなさなかった点です。内容が充実すれば、音楽の形は自然に生まれるもので表現される、と考えてられたのだと、今は思うようになりました。でも申し訳ないのは、様々な言い方で先生が繰り返し熱く語られたこの音楽の本質が、何となく理解出来るようになるまでに、こんなにも長い年月が掛かってしまったことです。

植田先生、不肖の生徒で本当に申し訳ありません。でもやっと少しずつ見えてきたので許してくださいね。長く掛かりましたが、もう一生忘れないでやって行けると思います！

[illegible]

杉江康 (31期声楽)

U師匠お疲れ様でした

出来の悪い弟子より。私は師匠の話が四年間で、どれだけ理解出来たかと言うと恥ずかしい限りです。未だに大合奏室での歌の試験で歌詞を忘れた夢を見ます(苦笑)。師匠は意志が強いからタバコを吸い続けるとおっしゃる。タバコを吸っては小さな卓上掃除機で灰を掃除される。話をされ自分で納得されると、Uウムラウトがレッスン室に炸裂〜この響きが素晴らしい。一時間以上の発声練習で私はクタクタ…曲を見て頂く時にはフラフラ…。

レッスン室を出ようとしてからの話が長い。夏休みは丁寧にレッスンをして頂く、七条大宮の御自宅に伺うと、延々5時間…京芸が無くなりかけた昔話や元々建築志望との事、しかし歌った時間は？ 叱咤激励・ちゃんと歌えず破門だ！と四回生の頃には歌うの向いて無いのかな？レッスンを終わって自分の不甲斐なさに音楽棟の壁を殴って居りました(苦笑)。しかし師匠が棺桶に入ってからでも頑張れとおっしゃる…私細々・合唱指揮者として続けさせております。合掌

[illegible]

箸尾哲男 (32期声楽)

大学を卒業して早20数年経ちました。

この間、老若男女問わずいろいろな方達との出会いがありました。

音楽関係者に限らず、様々な職業の方、外国の方達。

そして為になるアドバイス、お言葉、エネルギーをいただきました。

これは私にとりまして大切な宝物です。

その反面、友人、お世話になった先生方との悲しい別れもありました。

今年の6月初め、大学時代、そして卒業してからもお世話になった植田治男先生の訃報が届きました。ここ10年程はお会いしていませんでしたが、ご病気をされたにもかかわらずお元気でお過ごしと聞いていましたので大変驚きました。お亡くなりになった前日(先生のお誕生日)もお元気で、当日も朝からレッスンのご予定があったそうです。

門下生なら誰もが経験したことと思いますが、それはそれはレッスンが長い！！

大学では他の授業もあるのでそれほどではありませんでしたが、自宅でのレッスンはその日の予定がたたないくらいでした。約束の時間に行っても、前のレッスンが伸びており、始まるのは1、2時間押し。その後もどんどん押し続ける……足は棒になり……本当にお話し好きでした。今では懐かしい思い出です。

同級生の門下生たちとお家にお参りに寄せていただきましたが、レッスン室は当時のまま。ソファも置いてあるものも……一瞬にして当時のレッスンの情景が蘇ってきました。

先生にはたくさんのことを教えていただきました。その一つ一つをこれからの音楽活動に役立てていければと思います。

先生、ありがとうございました。

心よりご冥福をお祈りいたします。

[illegible]

植田治男先生を偲んで

森 祐理 (35期声楽)

「はい、まわしてまわして…」今も目を閉じると、先生の声が聞こえてくるような気がします。私が植田先生と初めて出会ったのは、担当門下の初顔合わせの時です。背の高い老紳士が現れびっくり。男性の先生に就くのも初めてでしたが、レッスンの方法はさらにユニークで、驚きの連続でした。まず植田体操から始まって、呼吸法、発声…。それでレッスンが終わってしまうことも度々で、友人たちがオペラのアリアを歌っているのを聞きながら、ため息をつくこともありました。でもあれから20年経った今、福音歌手としてコンサート活動が続ける中で、植田先生の御指導が大きな力となって、私を支えてくれています。毎年国内外にて100回以上のコンサートがありますが、声が守られているのは、大学時代、まず基礎作りを徹底してくださった植田先生のご指導があったおかげだと思えます。先生が、長い人生というスパンを見ながら御指導下さっていたのだと、改めて感謝が溢れています。いつも凜とした植田先生でしたが、門下生の集まりで楽しく過ごしていた時、ポツッと、「森さん、あなたの手紙にお祈りしていますって書いてあったでしょう。本当に祈ってくれている気がして、うれしかったですよ」と仰ったのです。思わず、先生の顔を見上げると、なんだか遠い目をされていたのを思い出します。ご自身も癌という病と闘いながら、現役の声楽教師として生涯を全うされた植田先生。この先生のご指導を仰ぐことのできた光栄を感謝して、これからも歌い続けてまいりたいと思います。いつの日か、天において再びお会いできる日を願いつつ。



4年で100人《会員だより》

自分史

10期オーボエ 岡田良機

定年退職をしてからも、以前より務めておりました宝塚歌劇オーケストラの指揮を契約制で年間約3公演（1公演は1ヶ月間）を担当しております。その他にアマチュア市民オケと学生オケをそれぞれ一つずつとママさんコーラスの常任指揮をしています。年間を通し満遍無く活動させていただいております。

私は昭和38年に京都市立音楽短期大学を卒業し、すぐ大阪フィルハーモニー交響楽団にオーボエ奏者として入団致しました。11年間大阪フィルに在籍しておりました。その間、フルオーケストラの演奏活動の他、室内楽等アンサンブルの演奏も活発に行ないました。

昭和48年、指揮者でもあります作曲家の外山雄三先生よりオーボエ協奏曲を贈られ京都芸術会館にて初演致しました。

昭和49年に宝塚歌劇のオーケストラに移り、昭和57年から指揮に転向し、その後は指揮者として活動しております。

大阪フィルに在籍しておりましたその間に20世紀の、世界を代表する指揮者、ソリスト（例えば指揮者ではR. V. マタチッチ氏、F. パイヤール氏、ピアニストではA. ルービンシュタイン氏、M. ポリーニ氏、ヴァイオリニストではA. スターン氏、R. コーガン氏、E. シェリング氏、チェリストではM. ロストロポーヴィチ、J. シュタルケル氏、フリュティストではJ. P. ランパル氏、オーボイストではH. ヴィンシャーマン氏、トランペッターではM. アンドレ氏）など各氏と共演出来ました事と、その音色、また音楽は、私の心の宝物として今も印象深く記憶に残っております。

* * * * *

ザルツブルク音楽祭

10期ピアノ 江口洋子

30数年間勤めてきました京都子どもの音楽教室や短大の非常勤講師を退職し、やっと仕事や時間に追われていた日々からも解放され、昨年8月にザルツブルク音楽祭に行ってきました。

久しぶりの飛行機と海外旅行で、出かける前からワクワクドキドキでした。8月のザルツブルクは汗をかくこともないくらい空気はひんやり、カラッとしていてとても静かな美しい街でした。

音楽祭は祝祭大劇場内のモーツァルトオペラ劇場で、3日間に亘って日程的に運よく、モーツァルトの「フィガロの結婚」と「コシ・ファン・トゥッテ」の2つのオペラと、G. ドュダメル指揮のウイーンフィルの演奏会という豪華な機会に恵まれました。特に外国で見るオペラは初めての為、美しい衣装と夢のある舞台……等いろいろ楽しく想像していましたが、演奏が始まり幕が上がってみると、期待がはずれ、舞台装置は中央に簡単な階段のある1階、2階の部屋が設定してあるだけのものでした。また衣装は、女性歌手は白のブラウスと黒のパンツ姿、男性歌手も黒と白の服装で、華やかさとはかけ離れた舞台に正直がっかりしました。もっとその当時の雰囲気や夢のある舞台装置と、各々の登場人物の華やかな衣装を期待していたのですが……。二つのオペラとも同じような舞台装置でした。最近は経費節減でこのようになってきているのでしょうか？いや、それともこの方が現代的で今の時代に合っているのでしょうか？但し歌唱力と演技力は本当に素晴らしく大きな感動を覚えました。オペラの舞台の雰囲気とは反対に、観客の方は女性は美しいロングドレス、男性も正装で、日本ではちょっと考えられないくらい華やかな雰囲気でした。休憩時間はゆったり30分位あり、その間に優雅な感じでワインを飲んだり、会話をしたりして、まさに上流社会の社交の場の様でした。ホール全体の雰囲気がヨーロッパの音楽の世界であることを実感しました。

特に最初のオペラの日は初めての経験で、興奮さめやらぬまま、ザルツァッハのほつりを心地よい夜風にあたりながら、ミラベル公園を通り抜け、ライトアップされたホーエンザルツブルク城を見ながら、素晴らしい音楽に触れた幸せな中を歩いてホテルに帰着いたのは11時頃でした。1年過ぎた今でも、あの時の夢のような気分が懐かしく思い出されます。

10期ピアノ 高田悦子

私は京都市立音楽短大を卒業して、古里（金沢）に戻り、自宅ピアノ教室、ヤマハ講師、高校非常勤講師、保育専門学園講師等をやりながら、NHK放送合唱団の伴奏をやりました。自分のピアノレッスンに月1回位、音大時代の先生（吉田輝子先生）に、結婚迄の6年間位通いました。結婚後10年位して、山根美代子先生に師事して、約25年間（先生が亡くなられる迄）勉強会を続けました。

仕事は結婚してからは、金沢（実家）と富山の自宅レッスンのみをやり、今も続けてやっています。ピアノ教室は年1回位発表会の開き生徒さん達の成長を楽しみました。

我家の三人の子供達は、小さい時から義母や、実家の母に世話になったり、理解と助けがありました。だからこそ、音楽活動をずっと続けられたのだ、と深く感謝しております。主人は高校の数学教師でしたが、趣味でチェロをやっておりました。主人のチェロの先生の発表会が年1回ありますが、今年21回目で、ピアノ伴奏をずっとさせて頂いております。月1回の町内合唱団の指導も、約10年になります。

主人は3年位前に亡くなりましたが、約7年脳梗塞が原因で左半身不随になりました。介護が大変でしたが、デイサービス等を利用して、レッスンとコーラスを続ける事ができました。長男(38期高田剛志)は主人の影響でチェロをやり、京芸卒業後、ドイツのハンブルグ音大に7年間留学し、大学院卒業後は帰国し、東京に住み、ソロ活動、オーケストラのエキストラ、尚美学園大非常勤講師をやっています。昨年12月にCDを発売しましたので、聴いて頂けたら幸いです。娘はピアノ講師、次男は会社員ですが趣味でビオラを弾き、仕事の合間にオーケストラで弾いています。

生徒さん達とレッスンしていると沢山パワーをもらいます。これからも健康に気をつけながら音楽と関わって楽しんでいこうと思っています。

* * * * *

音大存亡を乗り越えて

13期声楽 大須賀留美子

コール真声会で歌う事20年。現在、代表を務めながらメンバーの方々と音楽を語り、人生を語りつつ、和気藹々楽しく歌っております。又、真声会京都支部の役員活動も、早いもので今年で15年目となり、私の意に反して前へ前へと押しやられる卒業年度にも慣れっこになった今、岡崎校舎での楽しかった学生生活が時折懐かしく思い出されます。

中学一年生の時、子役として出演した音大・第一回オペラ公演・矢田部宏先生の創作オペラ「一寸法師」が、私と音大との初めての係わりです。

私の在学当時は音大の存続が危ぶまれた時代で、京都市へのアピールとしてか、四年制への段階として「専攻科」が存在しました。いよいよ存続の危機が訪れた矢先、京都市長が直々に学生の受けるレッスンというものをご覧になれるという事態になり、当時の井上市長が、私の受ける声楽のレッスンを視察に来られ、「本当に音大は無くなるのだろうか？」という一抹の不安を抱きながら、ドイツリードを歌ったのを今でもはっきり覚えています。

又、父兄会の役員をしていた母も、大学の存続問題の為、会議に駆けずり回って日々奮闘。そんな中、私が専攻科を卒業する頃には、あんなに存続が危ぶまれていた音大は四年制として昇格する事が決定し、実に後ろ髪をひかれる思いで岡崎の校舎に別れを告げる事となりました。その後「四年制になった!」と喜んでいた母も、昨年夏、96歳で亡くなりました。

あんなに大変だった時代が今は嘘の様に、短大から四年制へ、そして大学院と素晴らしい発展の一路を辿り、著名な音楽家を輩出し、世界へと羽ばたいています。

母校への熱い思いは、距離感があればある程募るもの。東京を拠点に演奏活動を行っている娘のコンサートの追っかけの為、度々訪れる東京ですが、京芸の評判はコンクールの結果等によるものもあり、近年著しく高い評価を

得、ことの他、嬉しく誇りに思っている次第であります。

＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊

14期声楽 光野文代

短大と専攻科を卒業してから早いもので約42年が過ぎてしまいました。卒業後は多くの人達に歌やピアノを教えてきましたが、約20年前からはコーラスを教えることに携わっています。私も滋賀県の合唱団で歌っていて、月1回本山秀毅先生の御指導を頂いております。先生から本物のコーラスの真髄を教えて頂き大いに励みになっております。現在女声合唱団2つ、混声合唱団2つを指導しています。女声合唱団はいろいろな世代の人達と和気あいあいに楽しんでいます。今年の5月には京都コンサートホールで記念コンサートを開きました。一方混声合唱団は平均年齢77歳で90人のシルバーコーラスです。高齢にも拘わらず、歌うことを生き甲斐とした元気いっぱいの人達の集まりで、人生の大先輩から教えられることが多々あります。毎年京都コンサート大ホールや神戸での全国シルバーコンクールに出演しています。このようにコーラスを通じて多くの人と出会い、いろいろなことを教わり、経験させて頂いてきました。しかし良いことばかりではありません。指揮者は忍耐強く同じことを繰り返し、辛抱強く指導し、すべての団員に誠意を持って接していかねばなりません。また演奏会を前にした時には、いつも選曲に最も悩みます。その様な時には、芸大の同窓生に適切なアドバイスを頂き、本当に有難く感謝しています。歳を重ねるにつれて、人との縁の大切さと有難さ、そして今まで音楽に携わってこられた幸せをしみじみと感じております。

＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊

盲学校、聾学校での音楽教育に携って

18期打楽器 佐々木百合子

クラシック音楽を聴いたり、ギターを弾くことが好きだった盲学校の生徒達。視覚を使った表現が好きで、和太鼓やマリンバの演奏に取り組んだ聾学校の生徒達。

私は、36年間彼らの音楽教育に携わり、演奏する苦しみ、喜びと一緒に体験しました。

盲学校では、聴こえるけれども見えにくい生徒が多いため、点字楽譜や拡大楽譜をさわったり見たりしながら、音に変えていきました。また、音楽大学へ進みたい生徒は、聴音や理論の学習をし、大学を卒業した後は留学もし、現在も活躍しています。

聾学校では、目は見えるけれど聴こえにくいというハンディーを持っているので、音楽のもつ、リズム・音階の理解に難しさがあります。それぞれの音符のリズムを正確に理解し、表現できるように、楽譜を見ながら口で階名を言い、両手でリズムを打つ練習を重ねました。覚えるくらい練習をした後、マリンバで弾く練習に結びつけました。「かえるの歌」「ドレミの歌」など、マスターするのに一年間かかる生徒もいます。しかし、学年が上るにつれ、弾ける曲数も増えてきました。

学校の学習発表会で演奏するだけでなく、外部との交流演奏として、近畿音楽研究発表会に出演させていただきました。ベートーヴェン作曲「運命」や、ビゼー作曲アルルの女「ファランドール」を発表し、生徒達は「練習中は苦しかったけど最後まで演奏することができて本当に嬉しい」と言ってくれました。

私の指導した事は、楽譜通りに弾くことを教えただけなのですが、予想以上に時間がかかり、うまく表現できないもどかしさを感じるがありました。でも、一生懸命演奏している生徒を見ると、苦しみは喜びに変わり、私は、とてもよい経験をさせてもらいました。この経験は、私の宝物です。

＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊

20期ホルン 辻浩二

卒業して35年、早いものだとつくづく感じるこのごろです。卒業と同時に入団した大阪市音楽団も勤続35年を迎えました。ホルン奏者として27年勤め、その後マネジャーとして8年、そして今年からは管理職として副団長という

役職をいただきました。マネジャーの延長線上にまだ勤務しておりますが、楽団をメジャーにするため、5年ぐらい前から、頻繁に東京出張をするようになりました。人ごみが人一倍嫌いな私ですが、さすがに首都は全国からありったけの人が集合している感があります。

そこで、大阪を見てみると、ここ数年の世論で報じられているように経済的にも疲弊していて、イメージがかなりダウンしているところです。コンサートホールの閉館、オーケストラの存続問題、私どもの大阪市音楽団も例外でなく、数年前から欠員補充が凍結となっています。

しかし、私たちは、吹奏楽に携わる中学生や高校生との交わりで、夢を与えられるような数々の企画を考え、多くの子供達をむかえ入れています。さらに、無料コンサートは、すでに数十年の歴史を持つ「たそがれコンサート」などで、多くの高齢者の方々に喜ばれています。

音楽を目指し、京都での4年間の学生生活で勉強したことが、35年経った今、まさに人のために役立つことが実感として感じているところです。

定年を迎える2年後以降、私は何をすべきかを今考えているところです。でも、やはりホルンを吹き、室内楽コンサートを展開しながら、音楽の持つ役割をさらに追求していきたいとの思いには変わりはありません。

すでに、多くの京芸生が卒業し、多方面での活躍を見聞しますが、今後もどこかで共演することを楽しみにしております。

＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊

学生時代

20期声楽 山本和子

早いもので卒業してからあっという間に35年経ちました。当時芸大は岡崎にあり、構内には武徳殿があり、そのわきに古い木造校舎と簡易な練習室である平屋のプレハブ校舎がありました。私は当時下宿生活をしていましたので、大学の授業を終えた後に夜遅くまでそのプレハブ校舎に残ってピアノや歌の練習をしていました。

プレハブ校舎はエアコンが無いため、夏は大変暑く窓を開け放しにして蚊取線香をたきながら、また、冬は大変寒くストーブを使用してもコートを重ねないと震えるような状況で、ピアノや歌の練習をしたことが懐かしく思い出されます。試験の前になると練習室の取り合いになり、自分の練習時間が夜遅くになることもざらでありました。お手洗いに行くときも「お手洗いに行ってきます。直に戻ります。」と書置きして行かないと戻ってきたら他の学生にピアノを利用されていることもありました。夜遅くなって練習室が空き、それから練習して深夜に岡崎公園の中を通して動物園近くの下宿先まで帰るのが怖かったこと。それでも当時の学生は練習に飢えていたように思います。夏の夜は動物園から動物たちの鳴き声や匂いが窓から入ってきます。六畳一間の小さな部屋で、テレビは無く、ましてや今のような携帯電話も無く、FMラジオから流れてきたエリー・アメリングの声に感動するような、真面目な純な学生生活でした。

現在は高校一年の娘と義母、夫と私の四人家族。平凡な静かな生活をしています。結婚して十年目に娘を授かるまでは、小さなコンサートを開催したり、受験生や女声コーラスと関わったりと、忙しい日々でしたが、今は家族の中の自分の役割も大切にしながら、無理のきかなくなってきた身体で自分なりに頑張っています。

あらためて学生時代・青春時代は未完成ながら、楽しい時代であったとしみじみ思います。市立芸大、感謝。

＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊

石油ストーブのかほり

26期ヴァイオリン 辻田結城彦

破れかけた網戸、薄暗い裸電球のあかり、少し湿気たような臭い…。僕の学生生活はそのような環境の中で始まった。

ある年の冬、本当に寒くて雪が積もり、実技の後期試験も近づいていた日のこと、例によって数に限りのある練習室は満室状態で、やむなく戸外で練習する羽目になった。

手がかじかんで、ヴァイオリンの練習には最悪の状況だったが、しばらく

奮闘していると上級生のひとりが出て来て「そんな冷たい所で弾いてないで、部屋代わってあげるから」と声をかけてくれた。大袈裟ではなく、そのときは彼女が菩薩のように見えたものである。

その後、大学は岡崎の地を離れ、洛西へと移って行ったが、今の学生たちは大幅に整った設備や環境の恩恵を受けて僕たちの頃とは全く次元の違う学生生活を送っているのだろうか…。

ひとりひとりが小綺麗な個室に籠り、ライバルを陵駕すべく脇目もふらずひたすら練習。

確かにプロの音楽家を目指す者の正しい姿かも知れない。ただ、今は僕たちの頃のように学年ごとに自主的にアンサンブルを組んで合宿、などということも行なわれないらしい。

僕自身、音楽高校・大学へ自らの生徒を送り込む身となって、彼らにはより多くの友人を作り「独奏」のみならず、すばらしい「合奏(アンサンブル)」のできる音楽家を目指してくれることを願ってやまない。

あの冬の日、上級生から譲ってもらい練習室に入ると今は恐らく使わない石油ストーブの灯油のかほりが何とも暖かく感じられた。もう、ずいぶん遠い日のことのように思うけれど時折妙に懐しく思い出されるのである。

* * * * *

39期打楽器 前川典子

「4年で100人」というコーナーの中に私の乱文が紛れ込むのもどうかと思うのですが…卒業生としての貢献度が少ないため、拙文ですがご協力させていただくことにいたしました。

私が大学に入学したのは1991年。浪人して入学し、2回生の時に今の学部長でいらっしゃる山本先生が赴任してこられました。これがきっと私の人生を大きく変える転機となったと思います。山本先生に根気強く私の問題点を指導していただき、また先生の御関係で、3回生の時に中村功先生との出会いがありました。この時中村先生の演奏会に手伝いの学生の一人として参加し、演奏に感激、何としてでも中村先生の御指導を受けたいと留学を決意しました。

当初の留学予定期間は2年間。しかし、最初の1年間は生活に慣れるので精一杯。次の1年は卒業試験の準備で手一杯。その中で山本先生に指摘していただいていた問題点を解決すべく頑張っていました。が、まだ自分の中で消化できていませんでした。中村先生の勧めと両親の寛大な理解もあり、上の課程に進む決意をし、計5年間ドイツに留学することとなりました。

帰国して、もうすぐ10年が経とうとしています。偶然にも、今年から5年間の予定で「中村功と仲間たち」というプロジェクトが大阪フェニックスホールで始まりました。第1回目が先月の9月に終わりましたが、私もずいぶん日本にも染まってきたな…と感じました。

今は、地元の音楽科の高校での指導や、保育園で打楽器をはじめとする音楽の指導、オーケストラやアンサンブル、ソロの本番と、一日として同じ繰り返しのない毎日で、いつまでこんなことができるのか？と体力的にも不安を感じる年齢となってきました。しかし、素晴らしい師匠達や仲間達に恵まれている幸せに感謝し、自分のできることを精一杯やっていこうと心がけ、毎日を過ごしています。

* * * * *

48期ピアノ 小澤まり子

今年で大学院卒業から6年が経ちました。その6年の間には、ドイツへの留学期間もあり、仕事としても音楽・ピアノを中心とした生活を徐々に営むことができたように思えます。卒業から今日まで、たくさんの方々と関わり、それを通じて自分自身の人間的・音楽的成長を少しずつ感じています。

特に帰国後は、ちょっとした実験的要素、何らかのアイデアを加えた演奏会を開く機会を作っています。今年は、大学院時代の友人、先輩たちと2度にわたるピアノのコンサート「ピアノの旬（じかん）」を企画しました。この演奏会での私たちの試みのひとつは、曲目にテーマを持たせ、ただ演奏するだけではなく、曲の解説や演奏者の考えなどを聴衆の皆様に言葉で伝えていくことです。

思い返せば、大学2回生の頃、芸大祭でピアノ科の仲間と「鍵盤屋」というおにぎり&鍋屋をやったことがあります。ピアノ奏者は「単独行動がメイン」と思われがちですが、その個性が集まった際の会話や、まとまりがあるようなないような、チグハグな行動は、面白くて、パワーがあります。個性的なピアニストが集まった雰囲気、私はとても好きです。

10月3日に、一度目の演奏会が終わり、次回は11月28日（日）午後2時30分より、「ピアノの旬（じかん）」vol.2 - アンサンブルの愉しみ、と題し、生誕200年のシューマン、ショパンに加え、生誕300年のフリーデマン・バッハ、生誕100年のバーバーなどのピアノデュオや連弾作品を、府立府民ホールアルティに於いて開催いたします。種類の異なる楽器が集まる室内楽とは違い、ピアニストの個のぶつかり合いを表現できるよう、出演者一同練習に励んでいます。今後もきっかけを作り続けていけたらと思います。

* * * * *

49期作曲 井藤麻依子

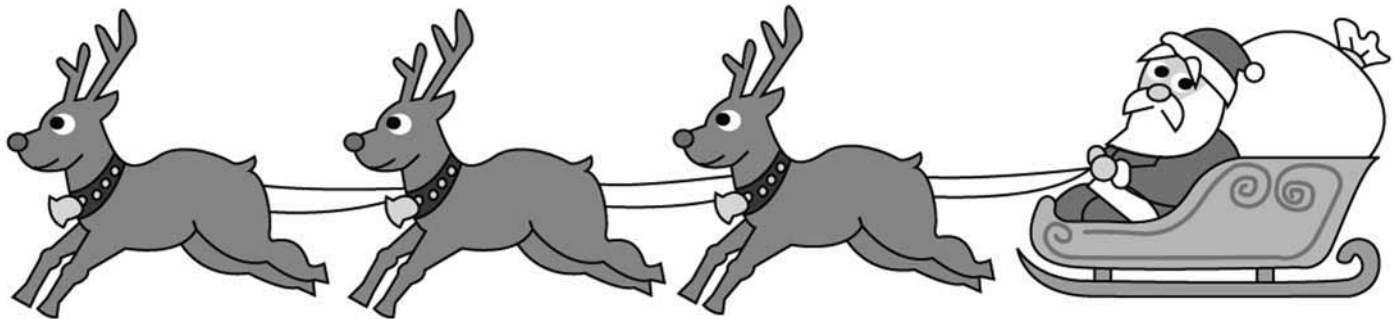
大学を卒業してはや7年……時が過ぎるのは本当に早いものです。

学生の頃から大好きだった和声を今でも懲りずに作っています。曲も少しずつ書き進め、昨年はメンデルスゾーン生誕200年を記念した企画演奏会において委嘱作品を披露させていただきました。演奏家との交流はとても新鮮で、当時のメンデルスゾーンに思いを馳せつつ取り組ませていただき、刺激的なよい経験が出来たことを嬉しく思っています。

曲を書く一方で、5年前から滋賀県の栗東芸術文化会館「さくら」にて、ジュニアオーケストラアカデミーの音楽基礎講師をさせていただいています。楽譜をいろいろな側面から丁寧に読み、知識だけで終わらず、自分の意志で表現する。知らないことを発見する喜びや感動は何物にも変えられないなど、子どもたちは大変多くのことを教えてくれます。私も専門は作曲ですが、多くの巨匠が残した音の解釈に終わりがあるはずもなく、柔軟な子どもたちからの容赦ない質問と疑問にどう応えるか、活気ある現場で、常に緊張感をもって音と子どもたちと向き合っています。

そのほかにも、子ども向けの編曲や、子どもの作曲のお手伝い等で、何かと子どもと接することの多い私。先日は、まるで図形楽譜のような五線ノートを「日記」だといって持ってきた子どもがいました。どうやら仲のよいお友達のお別れ会があり、その時のことを音符にしたとのこと。想像力、いや、創造力の果てしなさに圧倒され、気の利いた言葉をかけられず…。いろいろな子どもと接し、驚きと発見の連続で、表現とは何かを考えさせられる日々を送っています。

今号の会員だよりには12名の会員の方より寄稿いただきました。
この場をお借りして御礼申し上げます。



真声会 各支部活動報告

京都支部

京都支部が発足して以来、毎年9月を基準に支部総会を開催していますが、今年も9月5日に第21回支部総会を開催しました。発足以来、事業及び会計活動年度が毎年9月1日～翌年8月末になっていましたが、その後会計の処理上、8月1日～翌年7月末に改正したものの、年度の区切りが中途半端で、何かとネックになることがあった為、長年の懸案事項でありました支部活動年度を、一般的に4月1日～翌年の3月末に改正する事に承認を得ました。従いまして、2010年度だけは2010年8月1日～2011年3月末の8ヶ月間で、来年4月1日から2011年度の活動に入ります。

当日の総会の後、ゲスト講演として真声会会長の大村益雄氏（1期作）に、「クレタ島のミノア文明と、エチオピアにおける土着民族の生活文化について」との演題で、今日までの豊富な海外旅行（殆ど一般の人が行かない未開の地への探検旅行）をされています大村氏が撮影された、恐らくテレビや雑誌でも殆ど見ることの出来ない多くの貴重な写真と共に、現地の土着民族の生活文化についてのお話を聞かせて頂くことが出来ました。出席者は、この地球に現代文化とはかけ離れた原始的な世界で、お互いに助け合って明るく生活をしている民族の姿とその自然に驚き、大感動！来年度も是非続編を……と願っています。

今年は3年毎に発行しています支部会員名簿の発行の年で、11月に新しい会員名簿を発行し、支部報発行と共に夫々の委員会で順調に活動を行っています。

2010年度は変則的な年度になりましたので、プロムナードコンサートはありませんが、2011年度の事業として、来年8月29日(日)に京都府民ホール・アルティに於きまして、第28回プロムナードコンサートを予定しています。また支部会員の充実した素晴らしい演奏を、多くの皆様にお聴き頂けます事を願っています。

支部長 山田晏子（10期声）

滋賀支部

今年度新会員5名を迎え、支部会員も180名超となりました。

5月の総会で10・11年度役員が下記の通り決定しましたのでお知らせします。

支部長 杉中 博（19期Tp） 副支部長[事務局] 井出 悟（20期Pf）
会 計 水野正裕（21期Tb）
広 報 西あかね（43期声）桑名しのぶ（47期Vn）大角多佳子（48期Fg）
研 修 小松文郎（21期Vn）田村由美子（36期声）角間秀子（38期Pf）
中井絵理（52期Cl）

会計監査 椿久美子（5期Pf）奥村隆雄（16期打）

さて支部演奏会ですが、第22回「湖のしらべ」を11月3日にしがぎんホールで開催しました。

奥村夏海さんのマリンバ、中井絵理さんのクラリネット、服部悦子さんと光永秀子さんのピアノデュオ、藤原容子さんのソプラノ、尾崎美佳さんのヴァイオリンと多彩なプログラムとなりました。最後には恒例の出演者全員による合奏を、河副功さんの編曲で「いきものがかりメドレー」を演奏しました。

さて私事ですが、教職生活もあと5ヶ月。大過なく終われるようにと願っています。

支部長 杉中博（19期Tp）

大阪支部

http://senri-music.com/shinseikai-osaka/
2010年度総会は、去る5月29日(土)、大阪駅のホテルグランヴィア大阪・中國料理「北京」にて開かれ、昼食を共にしながら、いつもながら和やかな会となりました。

支部長・大村益雄（1期作）の挨拶に始まり、私、金森が一年のまとめを報告、続いて、飯田真基（17期Vn）が会計報告、竹内恵子（5期Vn）が会計監査報告を行い、全て承認されました。

09年の活動は、プロムナード・コンサートに代えて、金蘭会中・高校での「校内音楽会」（1/29同校ホール）を開催したこと、支部報発行2回、世話役会3回、郵送による持ち回り世話役会1回、事務局会計決算会議1回、大阪支部後援名義使用承認公演8件でした。

これからの活動について、プリリアント・コンサート開催が既に実施段階に入っていることが主担の大富栄里子（28期Pf）から報告されました。また、引き続いて、プロムナード・コンサートの開催を模索するとしました。

選出された新しい世話役・役割分担は次の通りです（任期2年）。支部長＝大村益雄（1期作）、副支部長、○広報＝金森重裕（6期Cl）、副支部長、○コンサート企画・運営＝大富栄里子（28期Pf）、事務局長＝樋口博行（27期Pf）、広報＝鈴木安子（1期Pf）、小林芳子（2期Pf）、住本紗恵（51期声）、コンサート企画・運営＝大西多恵子（10期声）、田淵幸三（14期Pf）、柴田千恵子（18期声）、森池日佐子（18期声）、大江浩志（27期Fl）、小崎恵理子（30期Vn）、釋まなみ（32期声）、石若雅弥（50期作曲）、会計＝飯田真基（17期Vn）、庶務＝西川香代（45期Cl）、○事業企画＝中島慈子（10期声）、中林節子（12期声）、康 瑛（31期声）、監査＝井上惇子（1期Pf）、竹内恵子（5期Vn）（○印は主担者）

「プリリアント・コンサート2010」～和と洋の架け橋～が、9月26日（日）午後3時から、大丸心斎橋劇場で2年半ぶりに開かれ好評を博しました。出演は、演奏順で宋 和映（55期Pf）、康 瑛（31期声）、宮北昌子（31期Pf）、桑原謡子（34期Vn）、武田佳美（34期Pf）、山守美由紀（48期声）、石若雅弥（50期作・Pf）、柴田千恵子（18期声）、松本真理子（15期Mrb）、舟橋里紗・武田怜奈・岸田 麗（いずれも在学生、打）です。最後は全員が出て「赤とんぼ」（石若編曲）で締めくくり、内容のある2時間でした。詳しくは別掲の後援一覧か大阪支部のホームページをごらん下さい。

大阪支部に関するお問い合わせ・入会は、事務局545-0004大阪市阿倍野区文の里4の12の25樋口博行方、電話とファクス06-6624-3425まで。（文中、敬称略） 副支部長・広報担当 金森重裕（6期Cl）

奈良支部

去る6月6日（日）に奈良支部総会と懇親会を“スタジオオカまぼこ”（39期打楽器の前川典子さんのスタジオ）で開催しました。総会が和やかな雰囲気終了した後、豪華なケータリング料理を気兼ねなしにいただきながら懇親を深めることができました。また、新加入の上田兼士さん（49期打）がさっそく第13回定期演奏会のスタッフに名乗りを上げてくださる等、会員の積極性が芽生える良い機会となりました。

間もなく、現在鋭意作成中の「真声会NARA通信」（第62号）を発行いたします。

来たる12月10日(金) 18:30～、秋篠音楽堂にて第13回定期演奏会を開催いたします。目下、出演者はじめスタッフ一同、演奏会の成功に向けて心を一つにして頑張っています。どうか多数の皆様のご来場をお待ちしております。プログラムは次のとおりです。

♪グリーグ作曲 ヴァイオリンソナタ第3番 ハ短調 Op.45
ヴァイオリン：武藤 礼（54期Vn） ピアノ：若林 由紀子（賛助出演）
♪マーラー作曲 さすらう若人の歌
テノール：菊田 義典（42期声） ピアノ：松本 恵里（賛助出演）
♪シェーンベルク作曲 6つのピアノ小品 Op.19
ラフマニノフ作曲 ピアノソナタ第2番
変口短調 第1楽章 Op.36(1931年版)
♪山内利一作曲 Crazy Lion
山内利一作曲 空輪
打楽器：前川典子（39期打）
三味線・打楽器：山内利一（41期打・賛助出演）
♪チャイコフスキー作曲 5つのロマンスより（ボリス・ベクテレフ編曲による）
ショパン作曲 バラード第4番 ヘ短調 Op.52
ピアノ：鈴木 愛子（44期Pf）

支部長 高橋せつ子（16期打）

関東支部

関東支部は今年発足15周年を迎えます。5月11日（火）、銀座キハチでの総会に集まった会員14名は、その感慨にふけりつつ、これからの会のあり方、第15回となる定期演奏会などについて話し合いました。今年は役員改選の年でもありましたが、支部長島津与外次さん（5期声）には続投をお願いし、長年お世話になった副支部長、坪井フミ子さん（8期声）に代わって曾我尚江（27期Pf）が、また、事務局、青谷哲也さん（15期声）に代わって丸山慶子さん（30期Pf）がそれぞれ引き継ぐことになりましたこ

京都市立芸術大学音楽学部 第136回定期演奏会

音楽学部同窓会真声会 会員券

2010年12月5日(日) 14時開演(13時開場)

京都コンサートホール大ホール

切り取り線

と、また、新役員として脇野真樹さん（28期Vn）に加わっていただいたことをご報告いたします。大先輩方が築いてくださった親睦と実践の場を、役割交代、分担しながら、大事に守っていきたいと思います。

5月25日には会報Harmony第14号を発行。総会と前年度定演の報告のほか、辻有里子さん（48期Pf）、山崎ひとみさん（31期声）から音楽活動と日常生活について投稿していただきました。そして、インタビュー記事「この人にきく！」では、二期会オペラ・トップバリトンとして大活躍の黒田博さん（30期声）に、舞台にかけ熱い思いを語っていただきました。これからも会員の皆さんの声をいきいきとお伝えできたらと思っています。

第15回となる定期演奏会は10月2日（土）大泉学園ゆめりあホールにて開催。生誕200周年に沸くショパン、シューマンの他、ラヴェル、ベルク、プロコフィエフと意欲的な曲目に挑むピアノ科5人、また日本歌曲、カンツォーネ、オペラアリア、ヴォーカルアンサンブルなどバラエティ豊かな12組が出演。中でも、第1回から出演を重ねてきた女声合唱団トレ・カンパーネ（指揮：青谷哲也さん）は今回で活動を休止することになり、懐かしい京都の光景を歌う千秋次郎さんの合唱曲で声を合わせ、脇野真樹さんのVnオブリガードを乗せて思い出深いラストステージになりました。プログラム最後は加藤アオイさん（16期Pf）のピアノの弾き語りと弦楽カルテットによるジャズ……一昨年亡くなられた土師博志さん（20期作）の編曲によるものを、追悼の気持ちを込めて演奏していただきました。たくさんのお客様の温かい拍手に支え

られてそれぞれが熱演した後、イタリアンでの打ち上げの時間をたっぷり取って、15年を振り返りながら楽しいひとときを過ごしました。

副支部長 曾我尚江（27期Pf）

中部支部

4月1日より、会員170余名で発足しました中部支部は、6月の「支部会報ニュースレター設立記念号」を無事発行することができ、支部としての活動がようやく走り出しました。会員の皆様には早速にもご理解、ご協力いただき、今年度支部会費をご納入下さいまして有り難うございました。また、あたたかい励ましのメッセージをお届け下さり、ささやかな交流の中でも確かな手ごたえを感じ取ることができ、委員一同ひとまずほっとしております。ほとんどの方は、支部自体どんな運営を目指しているのだろうかと見守っていただいているのが現状だと思います。委員会での立案はもちろんですが、皆様からのご意見や今後の提案などいただくことが最大の原動力となりますので多くの情報をお待ちしております。早、次号（2月発行予定）の支部会報作りに余念のない時期を迎えましたが、会員の演奏会案内、報告なども掲載してにぎやかな紙面になることを願っています。支部の存在に馴染んでいただけるにはまだまだ時間がかかりそうですが、焦ることなく、きめ細やかな対応を忘れず、中部地区のカラーを出していける活動を続けて行きたいと考えています。

支部長 中島百合子（19期作）

研究室訪問

野原 みどり 先生

2009年10月にピアノ専攻の准教授として着任された野原みどり先生の研究室をこの秋訪問し、お話をお聞きすることができました。

野原先生は着任初の本学130回目の入学式に凛々しく冴え冴えとした美しい着物姿で出席され、皆あっと驚き、これは本学始めて以来のことではないか、と非常にこころ打たれるものがありました。世界各地日本各地で大活躍されつつ、京都芸大で教鞭を取られ早くも一年が経ちました。

―着任されて一年、現在の所感をいただけますか？

あっという間の一年でした。本当に早かったですね。個人的に教えることはありましたが大学で教えることは初めてでした。個人レッスンでは必要であれば3時間でも4時間でも時間をとることは可能ですが、大学という機構のなかで、学生にとって人生の大切な一部分となる4年間の貴重な期間に、毎週一時間という限られた時間のレッスンで成果をあげてゆくことは大変なことです。更にこれから法人化という未知の事態が待ち受けており、ますます困難な時代になっていくかもしれませんが、やりがいがあることと思います。

よく、子どもを育てることは、子どもに育てられて一緒に成長してゆくことと言われますが、学生を教えることも同じようなことと私には感じられます。互いに良い影響を受けつつ成長してゆけたらと思います。

―20年後が本当に楽しみです。

ずっと一緒に成長しつつ、つとめられたらと願っています。



野原先生によって開かれるピアノの歴史が、20年後25年後この京都で大きなファミリーとなり美しい花を開く様子が目に浮かぶようでありました。（記：中村典子（32期作））

京 芸 だ よ り

～定期演奏会をぜひ聴きにいらしてください～

来る12月5日（日）午後2時、響／都プロジェクト京芸ルネッサンス2010コンサートシリーズ京都市立芸術大学創立130周年記念 京都市立芸術大学音楽学部第136回定期演奏会が京都コンサートホール大ホールにて行われます。

真声会会員の皆様は無料でご入場いただけます。会場受付にて卒業・修了期、専攻、お名前をお知らせください。また、会報内に印刷されてある真声会会員券をぜひご利用ください。この会員券は、会員様ご家族、友人知人のご利用が可能です。皆様のご来場をこころよりお待ちしております。

京都市立芸術大学創立130周年記念事業 京都市立芸術大学音楽学部 第136回定期演奏会

日時：2010年12月5日（日）14時開演（13時開場）

会場：京都コンサートホール（大ホール）
京都市左京区下鴨半木長1-26
（地下鉄烏丸線「北山駅」下車1番出口徒歩5分）

曲目：G. マーラー：交響曲第2番ハ短調「復活」

出演：指揮 広上淳一（京都市交響楽団常任指揮者）
管弦楽 京都市立芸術大学音楽学部管弦楽団
合唱 京都市立芸術大学音楽学部合唱団 卒業生 市民有志

入場料：1200円（全席自由）

チケット販売：京都コンサートホール 075-711-3090

主催：京都市立芸術大学
京都市立芸術大学創立130周年記念事業実行委員会

助成：公益財団法人ロームミュージックファンデーション

協力：京都市立芸術大学音楽学部同窓会真声会
京都市立京都堀川音楽高校

後援：京都市立芸術大学音楽教育後援会

お問合せ先：京都市立芸術大学企画広報課 075-334-2204

真声会会員の
コンクール等
受賞者

米国クラシカル・マリンバ・リーグ主催 2010年マリンバ アーティストコンクール（平成22年 3 月 2 日）
第 3 位 沓野勢津子（2007年 3 月卒業 管打楽専攻）52期

日本ショパンピアノコンクール2010（平成22年 3 月24日～29日、洗足学園音楽大学前田ホール）
第 3 位 ピアノ専攻4 回生 北端祥人

南カリフォルニアマリンバコンクール（平成22年 4 月30日～5 月 2 日、米国カリフォルニア州 チャップマン大学）
グランプリ 沓野勢津子（2007年 3 月卒業 管打楽専攻） 52期

第23回和歌山音楽コンクール 声楽部門一般の部（平成22年 8 月25日、和歌山市民会館小ホール）
奨励賞 津田祐理子（2008年 3 月卒業 声楽専攻）53期

第27回日本管打楽器コンクール（平成22年 8 月23日～28日、武蔵野音楽大学モーツァルト・ベートーベンホール）
第 5 位 大学院器楽専攻 2 回生 西村清志

第20回芥川作曲賞公開選考（平成22年 8 月29日、サントリーホール）
芥川作曲賞 山根明季子（2007年 3 月大学院修了）52期 院20期

第22回宝塚ベガ音楽コンクール（平成22年 6 月27日、宝塚ベガホール）
ピアノ部門入選 石原由佳子（2005年 3 月大学院修了）48期 院18期

声楽部門第 2 位 浦田恵子（2009年 3 月大学院修了）院22期

声楽部門第 3 位 五島真澄（2009年 3 月大学院修了）51期 院21期

第42回中日教育賞（平成22年10月21日「吹奏楽団の育成と地域音楽文化振興」中日新聞社）
受賞 山本家寛（1958年 3 月卒業 作曲専攻）5 期

2010年度演奏旅行のお礼とご報告

この度は2010年度京都市立芸術大学音楽学部演奏旅行にご援助くださり、本当にありがとうございました。本年度も真声会のご協力、資金援助を頂き、先輩方が昔から続けてこられた演奏旅行を無事終える事が出来ましたのでお礼とご報告を致します。

本年度も夏季長期休暇を利用し音楽学部から有志を募り63名の演奏旅行移動公演オーケストラを結成致しました。毎年様々な地方を回っているこの企画ですが、昨年度徳島県への演奏旅行が当時流行していた新型インフルエンザの影響により中止になり、1年のブランクを経て、2010年度は開催地を宮崎県とし9月12日の昼に京都を出発し大阪南港よりカーフェリーを使い9月13日から9月15日までの3日間で宮崎県内の小中学校7校を巡らせて頂き、15日の夜宮崎を出発し9月16日の朝フェリーで大阪南港に着き同日の昼前に京都に戻って来るという4泊5日の近年稀にみる長旅で過酷なスケジュールの中でしたが、旅行中も大きなトラブルも無く、63名元気に戻って参りました。宮崎県では計8公演行い、約2600名の児童や教職員の皆様や地域の方々に演奏を聴いていただきました。

そして京都に戻って参りましてからも、毎年度行っておりましたウエスティでの京都公演を行わず、本年度から新たに京都公演という形で9月18日に私達の京都芸大の近くにあります京都市立桂坂小学校にて、今まで堀川音楽高校(旧・京都市音楽高校)が公演されていたカザラッカコンサートを今年度から引き継ぎ、演奏旅行移動公演オーケストラで公演させていただきました。普段あまり交流の機会の少ない地域の皆様に有志のオーケストラではありますが、京都芸大としてオーケストラ公演ができた事はとても素晴らしい事だと感じました。また、今年度は京都公演の後に9月23日に長岡京市で行われました「2011年国民文化祭1年前プレイベント 長岡京音楽ジャンボリー」のゲストとして京都芸大演奏旅行有志によるオーケストラで出演するなど京都・宮崎の両方合わせまして計10公演、数多くの公演の機会を与えて頂きました。

本年度の公演内容はアンダーソン作曲の「シンコペーテットクロック」「ブルー・タンゴ」、チャイコフスキー作曲の「くるみ割り人形」より抜粋、ビゼー作曲の「アルルの女 第2組曲」より2曲、指揮者体験コーナーと児童代表2名にオーケストラの指揮を体験してもらうラデツキー行進曲。そしてマリオやサザエさんなど人気のメロディーを弾いて様々な楽器の音色の違いを聴いてもらう毎年好評の各専攻による楽器紹介に本学作曲専攻に編曲していただいた公演先各校の校歌とジブリメドレー、そして本年度は4名の本校の声楽専攻の方々にも移動公演に参加していただきビゼー作曲のオペラ「カルメン」よりハバネラ、ヴェルディ作曲のオペラ「椿姫」より乾杯の歌などといったクラシック音楽の中で誰もが馴染みのあって聴きやすい、楽しめる演奏会なるように曲を選びました。各公演終了後に公演先の学校の職員の方々に「とても素晴らしかった」など沢山のお褒めのお言葉を戴きました。また後日公演先の児童からの感想のお手紙を頂き、「楽しかった」や「オーケ

ストラを初めて聴いて感動した」など大変喜んで戴き、この公演はどれも成功だったと言えます。

今回、行き先を宮崎県にした理由として、私、委員長の長友美穂が宮崎県出身という事もあり自身が京都芸大に入学し1回生の夏に初めて演奏旅行に参加して実際に小中学校で演奏し、その公演先の児童の皆さんのきらきらとした目で楽しそうに私たちの演奏を聴いてくれるその姿にとっても感動し、地方を巡って普段生のオーケストラを中々聴く機会の無い人々にオーケストラを聴いてもらうというこの演奏旅行の企画をととても素晴らしい企画と感じ、2年後この演奏旅行を自分の故郷である宮崎県で是非やりたいという一心で、京都から遠い場所ではありますが、行き先を宮崎に設定させて頂きました。私が生まれ育った宮崎県にはプロのオーケストラはありません。私が高校生の頃から宮崎県の人々はあまりオーケストラを生で聴く機会が無いといった方々が多いのではないかと感じており、いつか自分がオーケストラの一員として、オーケストラの良さやクラシック音楽の楽しさを供給できたらと強く願っておりました。

宮崎県にするとという事は、例年よりもかなり交通費とコストが掛かる事は承知で何度も何度も検討したり話し合いをしたり、当初は開催地を宮崎県にして無謀ではないかなど頭を悩ませました。また昨年度、徳島県へ予定していた演奏旅行の中止を受けて、演奏旅行の経験のあるメンバーが少なく戸惑いもあり、4月下旬に宮崎県で発生致しました口蹄疫問題で本年度の演奏旅行の中止も危ぶまれましたが、他の委員の協力や、各学校機関の皆様、そして真声会の皆様のご支援などに支えられ旅行日程中に大きいトラブルも無く全公演成功を収める事が出来ました。開催までに様々なトラブル等は御座いましたが、私たち生徒の力でオーケストラ公演全10公演を成功させた達成感 は計り知れません。こういった事から委員一同、演奏旅行を実行してよかったなと感じております。

またこれからもこの活動が続ける事を委員一同強く願っております。ここまで支えてくださった皆様に深く感謝いたします。

演奏旅行実行委員長
音楽学部管打楽専攻 ホルン 3回生 長友 美穂



真声会からのお知らせ

同窓会事務室が月・水・金の週3日稼働しています！

音楽学部同窓会事務室は現在、月・水・金の週3日稼働しています。美術学部と同室で、美術学部・音楽学部同窓会事務室として同窓会業務を行っております。皆様、ぜひお気軽に専用電話番号にご連絡ください。本部役員が会員業務に関するお問合せに直接お答えします。

開室日：毎週月曜日・水曜日・金曜日（10:00～15:00）

*年末年始、お盆、祝日及び学内立ち入り禁止期間(入試等)は休室します。

専用電話番号 080-6185-4494

開室日以外にお電話を頂いた場合、留守番電話にお名前とご連絡先を録音して頂ければ、開室時間中に同窓会事務室より連絡いたします。

お詫び

新卒者の方へお送りした追簿で、卒業期にミスがありました。

誤 第54(21)期生 → 正 第54(22)期生

誤 第55(22)期生 → 正 第55(23)期生

お詫びして訂正いたします。

「京都芸大130年の歩み(仮)」が創立130周年記念刊行されます。毎日新聞の人気連載「都の美」の書籍化で、求龍堂から2011年3月初旬刊行予定です。同窓会特別価格で購入できます。くわしくは同封のチラシをご覧ください。

真声会後援の演奏会

♪大江浩志・岩崎宇紀デュオコンサート　ーアルトフルートコレクションー

日時：2010年6月20日（日）15：00
会場：ムラマツリサイタルホール新大阪
出演：大江浩志（27期Fl）岩崎宇紀（27期Pf）
曲目：野澤美香　チューニングウィズジョン
西村朗　白昼夢
J. S. バッハ　アルトフルートによる無伴奏チェロ組曲第1番
BWV1007　他

♪アンサンブル　Kyotossimo　Vol.Ⅱ

日時：2010年6月29日（火）19:00
会場：京都府民ホールアルティ
出演：加藤ユミコ（32期作）吉岡アカリ、藤森亮一、吉田秀、小林玲子、
藤林真理、フロラン・シャレル、中田麦（55期打）
曲目：カプースチン　8つの演奏会用エチュードより
ガーシュイン　ラブイソディ・インブルー　他

♪clamusica　クラムジカ第3回公演　つゆのそぼふるー夏のささげものー

日時：2010年7月10日（土）18：30
会場：京都文化博物館　別館ホール
出演：上中あさみ（38期打）武田怜奈（3回生）大西泰徳（49期Vc）中村圭
介（49期Pf）井上真由美（院22期）松井萌（院21期）中村典子（32期
作）酒井信明（48期作）清水慶彦（48期作）増田真結（51期作）　他
曲目：増田真結　透聴
中村典子　ホカヒ
酒井信明　紫は水に映らず
清水慶彦　speculatio
ジョージ・クラム：宇宙の私生児のための牧歌　他

♪親子で歌いつごう日本の歌　～夏の巻～

日時：2010年7月11日（日）14：00
会場：ガレリアかめおか響ホール
出演：片山映子（27期声）美馬美紀（30期声）橋本尚（35期作）　他
曲目：平成19年文化庁・(社)日本PTA全国協議会選定により発表された「親
子で歌いつごう日本の歌」より夏の歌を中心に。

♪An Evening of Art Songs　～歌曲の夕べ

日時：2010年7月21日（水）　19：00
会場：兵庫県立芸術文化センター神戸女学院　小ホール
出演：藤　美千代（43期声）　他
曲目：H. ヴォルフ　「メーリケ歌曲集」より
春に／捨てられた女中／コウノトリの使い／妖精の歌　他

♪Spiel-Spiel 2nd. Concert

日時：2010年8月8日（日）17：00
会場：京都市立京都堀川音楽高等学校ホール
出演：膳ルミ子（48期Vn）杉中景子（48期Vn）陣門華子（47期Pf）　他
曲目：シューベルト　ピアノ五重奏「ます」
メンデルスゾーン　ピアノ三重奏　第1番
シュルホフ　フルート、ヴィオラ、コントラバスの為の小協奏曲

♪コチの会・東風・第2回公演

日時：2010年8月28日（土）/29日（日）
会場：黒髪山音楽ホール
出演：加藤ユミコ（32期作）中村典子（32期作）熊谷美紀（31期作）
高橋曜子、中田麦（55期打）
曲目：熊谷美紀：「達陀」～パーカッションを伴ったマリンバのための
加藤ユミコ：打楽器とマリンバのための“Beyond the Ao”
～碧あおを超えて
高橋曜子：アルトフルートのための「もゆら」
中村典子：打楽器独奏のための「薙なぐ日ひ」

♪～ベートーベン35のソナタ～

多川響子ピアノソナタ完全全曲リサイタルVol.5
日時：2010年9月5日(日)15：00
会場：京都コンサートホール　小ホール(アンサンブルホールムラタ)
出演：多川響子(44期Pf)
曲目：ベートーヴェン　ピアノソナタ第10番Op.14-2、第5番Op.10-1、
第22番Op.54、第21番Op.53

♪福井亜貴子ピアノアンサンブルシリーズ　Vol.4

日時：2010年9月12日（日）14：00
会場：秋篠音楽堂
出演：福井亜貴子（21期Pf）ザルツブルガー・ゾリスデン
曲目：W. A. モーツァルト　ピアノ四重奏曲第1番ト短調k. 478
F. J. ハイドン　弦楽四重奏曲ニ長調「ひばり」
R. シューマン　ピアノ五重奏曲変木短調op.44

♪奥田聖子・丸山依里　ソプラノデュオコンサート　Vol.2

日時：2010年9月23日（木）14：00
会場：京都市北文化会館　創造活動室
出演：奥田聖子（48期声）、丸山依里（48期声）、小澤まり子（48期Pf）
曲目：R. シュトラウス：セレナーデ
F. プーランク：セー
松園洋二：工藤直子の詩による「うたの絵本」
秋にまわる童謡・唱歌　他

♪田村幸造ピアノリサイタル～南仏の田園詩人デオダ・ド・セヴラックの音楽～

日時：2010年9月26日（日）14：30

会場：神戸芸術センター・ショパンホール
出演：田村幸造（36期Pf）
曲目：ラヴェル　水の戯れ
ドビュッシー　月の光
セヴラック：組曲「ラングドック地方にて」、日向で水浴びする女たち　他

♪京都市立芸大出身者によるブリリアント・コンサート2010

～和と洋の架け橋～

日時：2010年9月26日(日)15:00
会場：大丸心斎橋劇場
出演：金森重裕（6期Cl）、松本真理子（15期マリンバ）、柴田千恵子（18期
声）、桑原謠子（34期Vn）、宮北昌子（31期Pf）、康瑛（31期Vo）、武田
佳美（34期Pf）、山守美由紀（48期声）、石若雅弥（50期作、Pf）、栄
和映（55期Pf）、武田怜奈（3回生打）、岸田麗（3回生打）舟橋里紗
（2回生打）
曲目：ドビュッシー：前奏曲集　第Ⅱ巻　から〈花火〉
チャイコフスキー：「くるみ割り人形」からアンダンテ、マエストーソ
ラヴェル：水の戯れ
石若雅弥：(与謝晶子詩)海恋し、やは肌の、
三木稔：マリンバ・スピチュアル　他

♪京都市立芸術大学音楽学部真声会関東支部第15回定期演奏会

日時：2010年10月2日（土）14：00
会場：大泉学園ゆめりあホール
出演：川口則子（1期声）熊谷房子（1期声）小出八重子（4期声）小林和子
（4期声）山本輝子（4期声）秋山喜久子（5期声）島津与外次（5期
声）坪井フミ子（8期声）青谷哲也（15期声）加藤アオイ（16期Pf）
曾我尚江（27期Pf）脇野夏樹（28期Vn）成島いずみ（30期声）文野真
理（30期声）丸山慶子（30期Pf）山崎ひとみ（31期声）高橋律子（34
期Pf）平岡舞子（43期Vn）
曲目：ショパン　幻想即興曲
シューマン　ウィーンの謝肉祭の道化より
中田喜直　歌をください
モーツァルト　《皇帝ティートの慈悲》より「涙する以外の何事も」
レオンカヴァッロ　《道化師》より「鳥の歌」
土師博志（20期作）編曲　ア・タイム・フォーラヴ　他

♪「ピアノの旬（じかん）」第1回　情熱の中で

日時：2010年10月3日（日）18：00
会場：京都文化博物館別館ホール
出演：小澤まり子（48期Pf）石原由佳子（48期Pf）上敷領美絵（48期Pf）平
居妙子（院18期Pf）増永智子（院18期Pf）小石みなみ（44期Pf）松本
直子（47期Pf）陣門華子（47期Pf）
曲目：ショパン　ワルツ　作品42
ソナタ　変ロ短調　作品35
シューマン　アヴェック変奏曲　作品1
謝肉祭　作品9　他

♪アフター・アワーズ・セッション《ブレーメンの音楽隊》

日時：2010年10月23日（土）18：30
会場：玉水記念館
出演：右近恭子（25期Pf）松原央樹（29期Cl）他
曲目：F. ティッシュハウザー　ブレーメンの音楽隊
L. テュイレ　六重奏曲　変ロ長調Op. 6
G. フォーレ　ドリー組曲

♪関西ユングチェリステンアンサンブルコンサート

日時：2010年10月27日（水）　19：00
会場：フェニックスホール
出演：江口陽子（51期Vc）、片山英摩（52期Vc）　他
曲目：F. J. ハイドン　3つのディベルティメント
J. S. バッハ　シャコンヌBWV1004
J. クレンゲル　讃歌　作品57　他

♪おひるまピアノトリオ　～子供も楽しめる音楽紙しばい

日時：2010年10月30日（土）14：00
会場：西宮北口OPUSホール
出演：木須すみれ（51期Vn）江口陽子（51期Vc）河合由夏（Pf）
曲目：メンデルスゾーン　ピアノ三重奏曲第1番
モーツァルト　「フィガロの結婚」より　恋とはどんなものかしら　他

♪三森尚子ピアノリサイタル

日時：2010年10月30日（土）15：00
会場：イシハラホール
出演：三森尚子（26期Pf）
曲目：ショパン　バラード　Op.47　As dur
ソナタ　Op.35　b moll　他

♪ピアノデュオの魅力vol.4　遥かなるイベリア

～煌きと情熱、そして幻影～「アルベニス生誕150年に寄せて」

日時：2010年10月30日（土）17：00
会場：青山音楽記念館バロックザール
出演：蜂谷葉子（29期Pf）　大岡紀子（29期Pf）
曲目：アルベニス　組曲「イベリア」よりトゥリアーナ、ナヴァーラ
インファンテ　アンダルシア舞曲
ラヴェル　スペイン狂詩曲　他

♪林澄子ピアノリサイタル

日時：西条公演 2010年11月3日（水）14：00
八幡浜公演2010年11月6日（土）18：00
松山公演 2010年11月8日（月）19：00
会場：西条市総合文化会館／八幡浜市文化会館ゆめみかん／ひめぎんホール サブホール
出演：林澄子（39期Pf）
曲目：シューマン 子どもの情景op.15
ショパン 舟歌 嬰へ長調op.60 他

♪第十一回 オリゾン作品演奏会

日時：2010年11月7日（日）17：00
会場：茨木市市民総合センター（クリエイトセンター）センターホール
出演：中村典子（32期作） 他
曲目：中村典子 明月楽 - 弐の巻 他

♪後藤真利子ピアノリサイタル

～ショパンとシマノフスキ・ポーランドに想いをよせて～
日時：2010年11月26日（金）19：00
場所：青山音楽記念館バロックザール
出演：後藤真利子（53期Pf）
曲目：ショパン ノクターン変ホ長調op.55-2、ワルツ変イ長調op.42、
3つのマズルカop.59、バラード第4番へ短調op.52
シマノフスキ 9つの前奏曲op.1、
ポーランド民謡の主題による変奏曲ロ短調op.10

♪室内楽コンサート

日時：2010年11月27日（土）18：30開演
会場：インヤー・レイク・ホテル（ミャンマー・ヤンゴン）
日時：2010年11月30日（火）20：00開演
会場：バンコク・ゲート・インスティテュート（タイ・バンコク）
出演：林澄子（39期Pf） 他
曲目：シューマン 童話の挿絵op.113／幻想小曲集op.73
モーツァルト 三重奏曲 変ホ長調K498
「ケーゲルシュタット・トリオ」 他

♪アフタヌーン・室内楽コンサート

日時：2010年11月28日（日）15：00開演
会場：インヤー・レイク・ホテル（ミャンマー・ヤンゴン）
出演：林澄子（39期Pf） 他
曲目：シューマン：子どもの情景op.15
ショパン 幻想即興曲 他

♪「ピアノの旬（じかん）」第2回アンサンブルの愉しみ

日時：2010年11月28日（日）14：30
会場：府民ホール アルティ
出演：小澤まり子（48期Pf）石原由佳子（48期Pf）上敷領美絵（48期Pf）平居妙子（院18期Pf）増永智子（院18期Pf）小石みなみ（44期Pf）松本直子（47期Pf）陣門華子（47期Pf）
曲目：F. バッハ：ソナタ ヘ長調
バーバー：思い出 作品28
シューマン：アンダンテと変奏
ショパン：ロンド 他

♪ネイヴホームコンサート ヴァイオリン&チェンバロ&ピアノの調べ

日時：2010年11月28日（日）14：00開演
会場：音楽空間ネイヴ
出演：駒田さよこ（29期Pf）相津朋子（Vn）
曲目：J. -M. ルクレール ソナタ二長調作品5-8
ヴィエニャフスキー 華麗なるポロネーズ
ザルツキー：マズルカ 他

♪京都市立京都堀川音楽高校移転記念 林田明子ソプラノリサイタル

日時：2010年12月4日（土） 18：00
会場：京都市立京都堀川音楽高校音楽ホール
出演：林田明子（37期声）、船橋美穂（25期Pf）
曲目：レスピーギ 昔の歌に寄せて
Rシュトラウス 明日こそは
マーラー リュッケルトの詩による歌曲 他

♪チェロとピアノで綴るショパン～ショパン生誕200年によせて～

日時：2010年12月5日（日） 14：30
会場：同仁堂ホール スタジオライフ
出演：後藤百合（43期Pf）、泉怜奈（Vc）
曲目：ショパン 序奏と華麗なるポロネーズ
ハ長調Op.3 ミチェロとピアノのための、
チェロソナタ ト短調Op.65
幻想即興曲 嬰ハ短調Op.66 他

♪真声会奈良支部第13回定期演奏会

日時：2010年12月10日（金） 18：30
会場：秋篠音楽堂
出演：前川典子（39期打）、菊田義典（42期声）、鈴木愛子（44期Pf）、浦前華名（49期Pf）、武藤礼（53期Vn）、松本恵理（39期Pf）、山内利一（41期打）

曲目：グリーグ ヴァイオリンソナタ第3番ハ短調
マーラー さすらう若人の歌
山内利一 Crazy Lion、空輪 他

♪Unmarked Singers クリスマスコンサート

日時：2010年12月19日（日）18：00
会場：島之内教会
出演：奥田聖子（48期声）、塚本知香（46期声）、丸山依里（48期声）、藤原さおり（46期声）、沖正樹（55期声）、坂本見一（55期声）、藤野豊（52期声）、樋口卓哉（55期声） 他
曲目：F. ブーランク：クリスマスのための四つのモテット
N. デュルフレ：四つのモテット
J. ラター編曲：牧人ひつじを、きよしこの夜、もみの木、
キャンドルライトキャロル 他

♪Argent Concert

日時：2010年12月26日（日）14：00
会場：神戸芸術センター シューマンホール
出演：可児麗子（54期打）、北倉明子
曲目：J. S. バッハ シャコンヌ
E. サミュ 4つのローテーションよりIV
石井真木 飛天生動Ⅲ 他

♪デュオ・リサイタル～ピアノとヴァイオリンで巡るヨーロッパ～

日時：2011年1月16日（日） 13：30
会場：青山記念音楽館バロックザール
出演：江口純子（54期Vn）、武藤礼（53期Vn）、高田美甫（Pf）、若林由紀子（Pf）
曲目：E. グリーグ ヴァイオリンソナタ第3番ハ短調 op.45
C. フランク ヴァイオリンソナタイ長調
J. ブラームス ヴァイオリンソナタ第1番ト長調op.78「雨の歌」
E. エルガー ヴァイオリンソナタホ短調op.32

♪NEW YEAR CONCERT

～京都市立芸術大学卒業生によるジョイントコンサート

日時：2011年1月16日（日）14：00
会場：高槻市生涯学習センター 多目的ホール
出演：岡本名那子（52期Vn）、杉田美穂（52期Pf）、滝明絵里子（52期Vn）、松下喜子（52期Pf）
曲目：M. ファリャ スペイン舞曲
W. A. モーツァルト
ヴァイオリンとヴィオラのための二重奏曲k. v. 423
C. ドビュッシー：ベルガマスク組曲より「月の光」「パスピエ」
F. リスト：バッハの主題による幻想曲とフーガ 他

♪姫野真紀 1コイン・ピアノコンサートVol. 6

日時：2011年1月30日（日）14：00
会場：学園前ホール（奈良市西部会館）
出演：姫野真紀（38期Pf） 他
曲目：シューベルト 楽興の時、軍隊行進曲（連弾）
リスト ヴェネチアのレガッタ、泉のほとりで
ラヴェル ラ・ヴァルス（連弾） 他

♪姫野真紀 ピアノコンサート～聴くかたち、みえる音～

日時：2011年2月26日（土）14：00
会場：奈良市北部会館3F 市民ホール
出演：姫野真紀（38期Pf） 他
曲目：ドビュッシー 仮面、野を渡る風
サティ 自動記述、冷たい小品
リゲティ エチュードより虹、金属 他

♪ピアノデュオリサイタル ～メルヘンの世界へ～

日時：2011年2月27日（日）14：00
会場：神戸芸術センター シューマンホール
出演：瀬川和子（25期Pf）戸川晃子（44期Pf）
曲目：ビゼー 「こどもの遊び」より
フォーレ ドリー組曲
チャイコフスキー 「くるみ割り人形」より 他

♪中井美内子ソプラノリサイタル

日時：2011年3月29日（火）19：00
会場：兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール
出演：中井美内子（35期声）、土居知子（35期Pf）
曲目：廣瀬量平 春の風
武満徹 「Songs」より 死んだ男の残したものは
中田喜直 日本のおもちゃうた
サン=サーンス 「サムソンとデリラ」より
私の心はあなたの声に花開く 他

※演奏会の真声会後援および会報掲載は会費納入者のみとさせて頂いております。どうぞご了承ください。

訃報

村坂透氏（25期作曲） 2月9日 ご逝去されました。
宮本輝紀氏（8期ファゴット） 9月1日 ご逝去されました。
つつしんで心からお悔やみ申し上げます。

編集
後記

11月に入っても、コート要らずな暖かい毎日が続いていましたが、急に冷え込み、秋の深まりを感じます。芸大130周年記念事業は今年いっぱい終了となります。今号も内容盛りだくさんとなりました。それだけ真声会の活動が活発化してきたのかなと思っています。また、会員の皆様のご理解、ご協力もあり、活動が円滑に進んでまいりました。心より感謝申し上げます。これから冬本番となりますが、どうぞお身体ご自愛ください。

（〇）